

39) **モリノカレバタケ** (新称)。林内の落葉の間に生ずる中形の菌で大津、京都附近には極めて普通に見られる。胞子は小形である。

40) **ニセマツカサシメジ** (新称)。マツカサシメジ *Pseudohiatula esculenta* ssp. *Pini* と同様土中に埋もれた松柏類の毬果上に生じ古くより両者は往々にして混同せられていたようである。然し顕微鏡的観察により二者は顯然と区別せられる。即ちニセマツカサシメジの胞子は Melzer 氏液により青変し、紡錘体は小形で膜うすく表面が平滑であるのに対し、マツカサシメジでは胞子は青変せず、紡錘体は大形でやや厚膜、表面には不定形乃至粒状の被覆物を有している。なお筆者のニセマツカサシメジの標品に於ては胞子が歐洲産のものよりやや大形であつたため、新品種とすべしとも考えたが、一応歐洲のものと同じとみなしてこの問題の解決は今後にゆずることにした。

41) **シロサクラタケ** (新称)。マツ林内の落葉上に生ずる。サクラタケ *Mycena pura* に肉眼的にも顕微鏡的にも極めて類似するが、子実体が類白色なる点に於て区別される。

42) **ヒメチシオタケ** (新称)。林内の落葉多き地上に発生する小形繊弱の種類で、子実体を傷つけば暗赤色の液を出す。

43) **ニセアシナガタケ** (新称)。林内地上に生ずるを常とするが、筆者は京都大学植物園で潤葉樹の根元近くに群生しているのを得た。比較的大形の紡錘体と Melzer 氏液に対して陰性の胞子を有するのが特徴である。

44) **フウセンタケモドキ** (新種)。傘の周縁部附近と莖の上半部並びに褶は紫色を帯び、他は粘土褐色を呈する。胞子は近似種に比し大形である為容易に区別せられる。マツ林内の地上に生ずる。

45) **コキララタケ** (今井)。腐朽せる潤葉樹上に叢生しキララタケに類似するも、莖の基部に黄褐色の菌糸が頭髮状の密なる集塊をなしている点に於て容易に区別せられ、又胞子を顕微鏡下にとうかがうときには両者の間に明瞭な差異がみとめられる。

□園原咲也、多和田真淳、天野鉄夫：沖繩植物誌 237, 28, 50pp. (1952) (タイプ謄写版)

園原、多和田、天野3氏によりリストを E. H. Walker 博士が編集し、学名の出典など追加訂正を行つて Preliminary edition として U. S. Civil Administration of the Ryukyu Islands から出された。沖繩島以南与那国島に至る間に産する高等植物が収録され、学名、和名、沖繩名、産地、簡単な用途が英語で記されている。

□日本学会会議・日本植物学会：ツユンベリー研究資料 i-viii, 164 pp. (1953)

昨年開かれたツユンベリー生誕200年記念祭の際出品された資料の集録である。特に植物に関係あるものとしては田中長三郎氏のツユンベリーと植物学 (4 pp.), ツユンベリー採集の日本植物の基準標本の写真 (50 余枚), ツユンベリーの日本植物に関係のある短篇論文 (3 篇) が収められて居る。希望者は東大正門前の井上書店で実費300円で入手できる。